

会 議 録

1 会議名

平成26年度第3回中郷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

（1）協議（公開）

ア 地域活動支援事業について

イ 自主審議事項について

（2）その他（公開）

3 開催日時

平成26年5月28日（水）午後6時30分から午後8時08分まで

4 開催場所

中郷区総合事務所 3階 第4会議室

5 傍聴人の数

4人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・ 委 員：岡田豊、岡田雅範、岡田龍一、坂田浪平、高橋達也、竹内昭彦、
竹内朗、竹内靖彦、古海博康、山内敏夫、山崎新一、横山一政、
陸川昇一

・ 事 務 局：宮崎所長、小嶋次長、梨本市民生活・福祉グループ長、
総務・地域振興グループ 山崎班長、城戸班長、岩澤主任、樋口主事

（会議録では、総務・地域振興グループ→総務G、市民生活・福祉グループ→市民G、教育・文化グループ→教育G、グループ長→G長と省略しています。）

8 発言の内容

【城戸班長】

ご案内した時間になりましたので、ただいまから平成26年度第3回中郷区地域協議会を開会します。本日は、山崎清委員から欠席の連絡がありました。

本日の出席者は13名です。上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席がありますので、会議が成立していることを報告

します。同条例第8条第1項によりまして、会長が議長になることに規定されていますので、これ以降の進行については、岡田会長からよろしく申し上げます。

【岡田(豊)会長】

今日は、地域活動支援事業の決定が主議題となります。中郷区は当初から再募集することなく、来ています。今回も多くの応募がありまして、希望の金額に至らないこともあると思います。委員の皆さんからは、募集要項の決定、仮審査、プレゼン、本審査と急ピッチで作業をお願いして、ありがとうございました。応募していただいた団体の皆さんに、いち早く事業に取り組んでいただくためですので、ご容赦をいただきたいと思います。

本日の会議録の確認ですが、坂田浪平委員と、竹内靖彦委員に申し上げます。

それでは、協議事項の(1)地域活動支援事業について協議をします。資料について、事務局から説明をお願いします。

【山崎班長】

(資料により説明)

【岡田(豊)会長】

お手元に皆さんが採点をしていただきました結果をまとめた一覧表があります。

中郷区は、公平性や一人一人の意見を尊重するために、採点制を取り入れてきました。その結果、このような結果になりました。前回のプレゼンの最後に、皆さんにお諮りして、従来どおり、点数の良いものから順番に採択事業を決定し、補助金額が満杯になったところで、下位のものについては採択しないことにしました。今回中郷区に割り振られている地域事業費は5,600千円です。希望額は13件で6,984千円です。1次審査の時から3件ほど内容を見直し、修正していただいた団体がありますが、それを加味した数字です。今までのとおり上位から採っていきますと、14番、12番、13番のLEDの3件について、不採択とせざるを得ない。3件不採択にしてもまだ金額的に不足しています。今までの例でいきますと、採択する最下位の「子供たちに新しい音・新しいプロジェクト」の希望額が1,000千円ですが、521千円の額になります。前回にお諮りして、今までのとおりでよいと意見をいただいています。あらためて、従来どおりで採択をしてよいか確認をします。

【竹内(靖)委員】

前は、従来のおりのやり方で返事をしました。それを覆すつもりはありません。

結果的に、LEDが不採択になるということですが、地域協議会の中で自主審議事項として、区内のLEDを促進しようということで、意見書を提出する方向で進めていますので、今回の不採択は妥当と思っています。

町内会と一丸となって事業を進めていくために、これから長い目で見て、市へ問いかけていく必要があります、市のお金を使って整備をしていくことが必要と思っています。

採択されようとしている事業については、矛盾や無駄があったりしていますが、これから連携をとり情報交換して、予算的に削減していけば、楽器のしわ寄せを少なくできるのではないかと考えています。

基本的には、従来どおりでよいと思いますが、来年再来年に向けて、議論していく回数が必要だと思います。点数だけ付けて、白黒つける市のやり方自体を見直す必要があると思います。

補助金の怖いところは、補助金がなくなった時点で、その会の活動が止まってしまうことです。補助金自体は、地域づくりに対する着火剤であるという、根本的なことを分かって、補助金申請を提出してもらうことと、補助金は恒久的なものではないと、各団体に問いかけて、来年再来年につなげていく事業に持っていくように、本来の地域支援事業に見直す必要があると感じています。

前回のプレゼンについて、自分の立場をわきまえて、行うべきだったという反省と、自分の気持ちの中で整理をつけるために発言をさせていただきました。

【岡田(豊)会長】

従来の決め方で問題はないけれども、各事業の中で無駄な部分があるのではないかと打ち合わせや、協議をすれば、まだ、最下位の部分にしわ寄せが行くのが少なくなるのではないかと。それには、審議回数を増やすことが必要だという意見です。各団体も自助努力が必要で、補助金が無くなった場合にどう考えるのか。

この後、出しますLEDの意見書も必要だということでございます。

他にございますか。

【坂田委員】

「子供たちに新しい音・新しいプロジェクト」は、質問書の数が多かった。4台揃わないと目的が達せられないと回答書になっています。約半額になったときの見極めはどうなるのか。

【岡田(豊)会長】

減額になっても問題ないか、質問が出ると想定して、事務局から申請団体に意向を聞いていただきましたので、事務局から説明していただきたいと思います。

【山崎班長】

提案者に連絡をして検討していただいた結果、この金額で、やれる範囲でやりますとのことでした。

【岡田(豊)会長】

事務局から言っていただいておりますので、ご了解いただけますか。

【坂田委員】

はい。

【岡田(豊)会長】

他にご意見ございますか。

【岡田(龍)委員】

来年度は、自助努力してくださいということをつけて、募集をかけるような方向性を付けられればと思います。

【岡田(豊)会長】

自助努力が必要だというお話です。

他にいかがですか。

【山内委員】

「子供たちに新しい音・新しいプロジェクト」は当初100万円で出てきましたが、減額されても、やるということですが、内容は変わるのでしょうか。

【岡田(豊)会長】

先ほども事務局から説明させていただきましたが、提案者がその金額の中で、努力してやりますというお話ですので、最終的に報告が上がってきた段階にならないと分かりません。

他にいかがですか。

【竹内(靖)委員】

事業の内容の調整を誰がやるのかを議論しなければならない。申請書が出された段階で、行政と提案者がやり取りするのか、地域協議会が提案者と話をして、他の提案事業とバランスをとってやり取りをするのか。同じ中郷区の中での地域活性化事業は間違いないので、1つ1つの枠ではなく、大きな枠の中で考えていくべきだと思います。

採点表を貰うまでは、行政とのやり取りが分からないため、地域協議会としてのスタンスを決めて、事業をコーディネートしていく必要があると思います。

【岡田(豊)会長】

来年に向けての課題が出されました。

他にいかがですか。

【高橋副会長】

例年どおりの形で採択することになると、先ほどの結果になります。これは、皆さんとプレゼンの時に確認し合った点です。

来年度に備えて、募集要項並びに中郷独自の採択内容がありますが、その中に、自助努力をして、多方面の補助も含めて、この事業に充てる努力が必要だと感じています。支援事業1本に絞りますと、どうしても金額が大きくなり、多くのものが採択できなくなります。

そういった意味でも、前以上に自助努力をお願いしたいと思いますので、次年度に備えて検討する必要があると思います。

また、再三問題になりました物品購入について、個人的には反対ではないですが、通年にわたる物品購入や、補助事業に頼った物品購入も内容によっては、考えていかなければならない。募集要項に入れられるかは分かりませんが、事前の協議会で、審査をする前に意見交換をやっていく必要があると感じています。

来春になると、募集要項をどうしましょうかと事務局から提案されますので、その時に今年度問題になった点を、議題にあげていただいて、事前に協議する場が必要だと感じています。当初行っていた、協議会自身での意見交換も必要だと感じています。

【岡田(豊)会長】

来年に向けての課題が出てきています。事業内容の精査をどこでやるのか、もちろん受付をしたときの調整も必要でしょうし、この地域協議会の中での議論も必要だとも思っています。事業間の調整は、どこでやるのかも、考えていく必要があります。

提案者には、自助努力を求めていく必要もあります。補助金が無くなったときにどのように対応していくのか、ということも考えていただく、などを次回の募集要項の前に話し合っ決めていきたいと思っています。

本審査後、1回で事業決定は無理な部分があったかなと思っておりませんが、本日、これをもって決めたいと思っています。従いまして、採択をする事業については、上

越市中郷区二本木駅活性化から子供たちに新しい音・新しいプロジェクトまで、採択事業としたい。ただし、子供たちに新しい音・新しいプロジェクトについては、521千円の採択額とします。その他の採択額は補助希望額のとおりとしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

《はいの声あり》

【岡田(豊)会長】

では、そのように決定させていただきます。

採択に当たっての条件を特につける案件はありますか。

採択をしたら、採択案文を発送するときに、先ほど言われた自助努力の件と、補助事業が無くなったときの対応を十分考えていただきたいと、採択の中に入れて、出していただきたいと思います。

あと、来年度に向けた課題については、先ほど申し上げた通りです。

特に、採択事業について付帯意見がなければ、そのように取り扱いをしたいと思いますがよろしいですか。

《はいの声あり》

【岡田(豊)会長】

ありがとうございました。

1項目の地域活動支援事業については、これで審議を打ち切りまして、(2)の自主審議事項について、入りたいと思います。

おおよその案文がまとまった委員会もありますし、行政のほうで動いて意見書として提出を見送るところもありますので、内容確認をグループ毎でやっていただいて、ここにお集まりをいただき、主にLEDの意見書案文について、皆さんからご意見をいただきたいと考えています。

グループ討議を15分程度で内容確認をしていただいて、今後の各グループの進むべき方向を話し合ってください、7時15分にご集合いただきたいと思います。

事務局から席の割り振りをお願いします。

【城戸班長】

今までと同じく、空き家対策と防犯灯についてはこの部屋で、高齢者サポートと二本木駅を中心とした活性化策については、隣の第3会議室でお願いをします。

【岡田(豊)会長】

竹内委員から意見書案文を出してありますか。

では、コピーをしていただいて、補足とか、加除のご意見を頂きたいと思います。

それでは、各グループで確認等をお願いします。

《再開》

【岡田(豊)会長】

短時間でしたが大筋の方向等を確認していただいたと思いますが、LEDは今ほど意見書案文を配りましたので、それは最後にして、各グループの方向性について、報告をお願いいたします。

まず、空き家対策について、お願いします。

【竹内(靖)委員】

まだ、意見書の段階ではなく、町内会長を通じて、区内の空き家の実態調査のためアンケート調査を行うことになっています。具体的には、個人情報に触れない程度で、倒壊しそうな空き家とか住めそうな空き家とかの数の実態調査を行う。その結果について議論を進めていく段階です。アンケートは、7月中位に町内会長を通じて区内に調査を出したいと思っています。

内容が出来上がった段階で、皆さんに見ていただいて、それから、町内会長にアンケートをお渡ししたい。具体的に日程はまだです。

【岡田(豊)会長】

それでは、次に高齢者対応についてお願いします。

【山内委員】

高齢者対策ですが、以前から話がありましたマップ作りで進めていくことになっています。各ブロックに1つ2つ選んで説明し、了解を得てから、進めていきたい。話を進める人は、その地区の民生委員、町内会の福祉部門の役員、社会福祉協議会、包括支援センターで、話を進めていくことになりました。時期的には、なるべく早めにやりたいのですが、その前に、我々も勉強しなければならないので、社会福祉協議会と話をしながら進めていきたい。

【岡田(豊)会長】

ありがとうございました。続いて、活性化対策。

【高橋副会長】

二本木駅を中心とした活性化ということで、進めてまいりました。以前から申し上げているとおり意見書は提出しない。行政から動いていただく形で組織作りをスタートしていきたいと確認されました。総合事務所も動いていただけると確約をとっていますし、今回のワークショップは、主催がまちづくり振興会でしたが、実際は総合事務所が中心となって段取りをしていただきました。ワークショップも継続していく必要があるのかなと思いますし、新幹線開業後も活動が継続していかないと意味が無いと考えています。こういう形でスタートしていますので、組織の立ち上げまでは行っていませんが、企業への訪問活動も少しずつ進めるべく段取りをしていただいていますので、私どもの自主審議としては、一旦終わりにして、必要に応じてチェックする形の活動にしたいと考えます。

【岡田(豊)会長】

空き家対策、高齢者対策、二本木駅活性化対策について、進むべき方向等について報告していただきました。防犯灯街灯LEDについては、意見書案文を配らせていただきましたので、この内容について、竹内委員から説明をお願いします。

【竹内(昭)委員】

(資料により説明)

【岡田(豊)会長】

LEDグループからこのように意見書案文をまとめてもらいました。皆さんから、この内容について、ここはどうなのという点がありましたら、お願いします。

【古海委員】

先ほどの地域活動支援事業にも関連しますが、3つのLED化は不採択になりましたが、あの内容を見て、LED化をする場合、補助が30%で70%が自己負担になりますので、私の町内会では難しいと思いました。中郷区の町内会長連絡会議でこれについて、話し合いをされていますか。

【岡田(豊)会長】

特に町内会長連絡会議では、LED化の議論をした経緯はありません。

【古海委員】

LED化を進めることは、大変素晴らしいことだと思います。この事業については、賛成ですが、補助率までこだわった補助制度を創設しないと、財源的に厳しい小さな

町内会は、非常に負担になるのではないかと思いますので、その辺の配慮をできないかと思います。

【岡田(豊)会長】

財源の乏しいところの話がありましたが、ごもっともな話でございます。最初に確認をしておきたいのは、補助制度創設の意見書を提出することについては、皆さんご異議ございますか。

よろしいですね。

意見書に書かれている言いたい内容についても、ご異議ございますか。

事務局にお願いですが、補助制度を持っている他市の補助率の割合を調べていただいて、意見書の補強をしていきたいと思っております。今回、3町内会のLED化について、不採択という決定をしました。そういう皆さんからのご意見もあろうと思っておりますので、それらをお聞きしながら、意見書の内容をもう少し調整をしていきたいと思っております。調整の内容については、報告をさせていただきながら、次回に、事務局と正副会長と竹内委員にも入っていただき、意見書の内容を少し変えて皆さんに見ていただいて、それで良ければ、市長へ提案していくことにしたいと思っております。よろしいでしょうか。

【坂田委員】

意見書の3番目の地域支援事業とのからみは、その趣旨は、地域支援事業の予算からは使わないと、その検討の内容をお聞きしたい。

私は、中郷区としては、地域支援事業では助成はできないと、したくないという方向を出したほうがよいと思っております。

【岡田(豊)会長】

竹内委員から補足はありますか。

【竹内(昭)委員】

昨年も既に実施しているのに、それを前面に出して、だめですと言うと、不公平感があるのではないかと。そのために条件を付けて、何割の補助で、上限を設けています。

これが通れば、ここからしないとなると思っておりますが、通らない段階では、それまでは言い切れません。

【岡田(豊)会長】

補助金制度の創設ができれば、地域活動支援事業を使わなくてもよくなります。

市も地域活動支援事業を使ってやってもらえれば、ありがたいという言い方ですの

で、それは、情けないと思います。坂田委員の言われていることも、よく分かります。その辺のところは、次のときにどうするかを見極めて、出していく必要があると思います。

【竹内(靖)委員】

意見書の3番の地域支援事業云々ということは必要ないと思います。地域支援事業のことは地域支援事業ですし、LEDのことはLEDのこととして出すべきだと思います。この文面は、無くてもよいと思います。中郷区としてLED化に対する補助金制度を創設してくださいということを分かりやすく言ったほうがよいと思います。

【岡田(豊)会長】

皆さんは、いかがですか。

【高橋副会長】

地域支援事業云々と書いてありますが、市は、できれば支援事業でやっていただきたいと言っていることを考えますと、市が行う事業が今年度から廃止になりましたので、本来だったらそれを充てるような形を市が考えることではないかと思いません。結局は、市も予算だと思えます。当区では70万相当が減額になりました。そういうものを充当させる考え方ができる上越市であってほしいと付け加えることがいいのかなと感じています。

【岡田(豊)会長】

地域活動支援事業でLED化を進めることが、地域活動支援事業としてふさわしいか、ふさわしくないか。前年度に二本木町内会が出てきた時に、これはという疑問の点がありましたが、採択をされたという状況にあります。皆さんがどうお考えか聞いておきたい。案文をまとめるときに、必要となりますので。いかがですか。

【坂田委員】

これについては、昨年も地域事業としてリンクさせることは好ましくないと言ったんですが、中郷区の採択方針をみんなで確認しているのですが、LED化については、そぐわない。ここで、地域支援事業という文言を出さないほうが中郷区としての意思が強まるのではないかと思います。

【岡田(豊)会長】

ほかにいかがですか。

【岡田(雅)委員】

地域支援事業でLED化は、間違いと思います。市が行政主体で、町内会がやるにしても、市が補助するのが当たり前だと思います。皆さんは、上越市に街灯の設置基準があるのをご存知ですか。距離が35mより近くに設置できない。町場は、家がいっぱいあり、家の明かりもあります。街灯は何のためにあるのかというと、道を明るく照らすためのものです。中郷では、家が離れていて、暗い道だと、それを待ち切れずにどうしようもないから、町内会の予算を使ってでもLED化したいと、地域支援事業もあるから、それを使ってやりたいのが本音だと思います。この表現を変えればよいと思います。地域支援事業を使ってでもやりたいというのを、一文を入れたほうがよいと思います。また、100基を超えて維持管理していることが分かりましたという文言がありますが、1項にも同じような文言が出てくるので、これはいらぬか、これを強調したいのであれば、「分かりました」よりも、「分かっております」の表現が強いのではないのでしょうか。あっちこっち行きましたが、入れたほうがいいのではないかと思います。

【岡田(豊)会長】

坂田委員からは、地域活動支援事業を使ってやるのは、ふさわしくないと、だから、ここは少し強くするために中郷区としては、もう認めないという方向でやるためにも、この中から削除すべきという意見もありますし、本年は実際に応募があり、不採択になりましたが、それらの内容を踏まえて、意見書案文を整理をしていきたいと思っています。竹内靖彦委員からは、地域活動支援事業云々という文言については、外したらどうかという点もありますが、この辺も考えさせていただきたいと思っています。

外すべきなのか、実際現実的に圧迫したわけですから、それも踏まえて、次回に提案をさせていただきたいと思います。補助制度の実態調査をして、町内会長連絡会議のご意見もお聞きして、進めていくようにしたいと考えています。その方向でいかがでしょうか。

すぐに、これがまとまるというわけではないので、次回6月の時に見ていただくことにしたいと思います。よろしいでしょうか。

1点皆さんにご相談があります。先ほど活性化グループからありましたように、一旦グループ討議を休止するとお話がありましたし、LEDについても、意見書を

提出していきますと、そちらのグループの討議もなくなります。この後どのように対応していくかということ相談したいと思います。高齢者の関係も、空き家対策も、まだまだ討議をして進めていく必要がある内容です。そちらは、進めていく必要があります。そちらに2グループが分かれて入るのか、それとも新たな、自主審議事項に進んでいくのか、どちらがよいかお聞きしたいと思います。

正直言いまして、地域協議会制度の中では、地域協議会を開催して分散してグループ討議を進めないと、単独でグループだけ集まって討議をしても交通費の支給もございません。残ったグループだけで集まって討議をしてくださいとかには、なりませんので、必ず地域協議会を開いて、分かれてやっていく方法しかないと思います。我々グループはグループだけで自主的に集まってやるよというお話であれば、いくら集まって進めていただいても問題はないのですが、交通費の手当もないことをご理解いただきたい。できれば、二者択一ですが、手の空いたグループについては、2つのグループに入るのか、新たな自主審議案件を模索して、そちらに進んでいくのか、どちらがいいかお聞かせ下さい。

【竹内(靖)委員】

空き家対策は数を重ねても答えが出ることはないと思いますし、高齢者も自主審議は大事だと思いますが、実践することまで結びつかないと、意味が無いと思います。自主審議の数が4つでこれだけの時間を費やすとトータルした時間が長くて、最後に何をやったのかゴールが見えなく達成感がありません。会長の方で、新たな案件があれば、提案してもらいたい。後、そろそろ、条例とかの知識を入れながら、中郷区を守っていく方向性となる協議会のスタンスを固めていく必要があるのではないかと思います。

【岡田(豊)会長】

自主審議する点は多くあると思います。未来を担う若者の対策をどうするのかも大切だといわれている。これから上越市の6次総合計画が出てまいります。こちらに説明に来て、皆さんに聞いていただく形になると思いますが、それらの内容についても、勉強して進めていく必要があると思います。ほかに皆さまから、案件がありましたらお知らせいただければ、ありがたいと思っています。

【古海委員】

会長の発言の中で、気が付きました。以前にも、発言しましたが、最近人口の減

少が激しいと、マスコミで取り挙げられています。合併する時にも、中郷人口の推計が冊子になって出ていました。合併した13区の中で、一番減少率が高いのが牧区、2番目が中郷区です。平成15年に中郷区の人口分布図を作りました。これを次回に行政から提出をお願いしたい。1歳刻みで、男女別でグラフで作っていただきたい。それを見るとこれからの自主審議に参考になると思います。将来を担う若い人の対策をどうするか。じゃ若い人はどれくらいいるのか。高齢者をサポートするに当たって。グラフを見ると良くわかるので、10年経つと中郷はどうなるかと。我々は今こんなことを審議しているけれど、何か役に立つのか。そういう表をみると分かるので、次回に提出をお願いします。

【岡田(豊)会長】

人口分布図を作ることはできますか。

【宮崎所長】

1歳刻みができるかどうかは分かりませんが、できる範囲でお作りしたいと思います。

【竹内(靖)委員】

できないことはできないと言ったほうがいいです。

グラフや数字は大事だと思いますが、それを見て、どうするかの議論になるか、いつも思っています。

長野で少子化を止めた地域の情報をご存じだと思いますが、地域で子供を産んだ人にお金を出そうとか、税金をただにするとかという地域もあるので、そういう参考事例の情報も必要だと思います。数字を貰うと暗くなるだけなので、資料は出してもらって、そこからどうするか、市に訴えかけるところまで持っていかないと、非常に厳しいのかなと思います。そういうことも考慮しながら資料の提供をお願いします。

【宮崎所長】

統計係と調整をして、提出させていただきます。市議会でも特別委員会で、人口対策の特別委員会も設置されましたので、その情報も併せて、先進事例も分かる範囲で調べてみたいと思います。

【岡田(豊)会長】

よろしくをお願いします。

【山内委員】

地域活性化事業の発表会がありましたが、熊本大学の先生が、一人暮らしの人に質問をして、「市内に自分の子供や兄弟がいれば、30分くらいで自分のところへ来られる。それがこれからの家族である。一人暮らしの家族は無いと。」という話を聞きました。上越市ではこういう考え方をこれからやっていくのかどうか、お聞きしたいと考えています。

【岡田(豊)会長】

手の空いたグループについては、新たな課題に取り組んでいくということで、資料等を整えていただきたいと思います。

その他に移りますが、事務局何かありますか。

【山崎班長】

(資料No.2を説明)

【竹内(靖)委員】

(資料No.2を補足説明)

【岡田(豊)会長】

よろしくをお願いします。

他にございますか。

【岡田(雅)委員】

今年は、採点表を回収しますか。

【小嶋次長】

回収はしません。

【岡田(豊)会長】

採点表の扱いは十分注意をしてください。

次回の会議ですが、6月25日水曜日に行います。

今年の視察先を今のうちから、考えておいてください。よろしくをお願いします。

これで、閉会します。

9 問合せ先

中郷区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL : 0 2 5 5 - 7 4 - 2 4 1 1

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。